

東京すくわくプログラム活動報告書 ① テーマ:設定遊び

<テーマ設定の理由>

日頃から広いホールを走ったり、リズム遊びをしたりと、体を動かして遊んでいるが、走るだけではなく、マットや肋木、ハシゴ、巧技台等、色々な設定を組み合わせることで、子どもたちがどのようにイメージを持ち、からだを使って遊ぶのか。一人一人の体の動きや、友達同士で遊びがどのように広がっていくのかを見ていく。

社会福祉法人たつの子の会
羽村しらうめ保育園
4歳児クラス
令和7年7月25日

○活動の内容

ホールに組まれた設定をみると、子ども達で話をしながら笑顔で待つ姿が見られた。

「あれ、やろう!」「一本橋できるよ」と友達と話をしたり、早く始めたくて、「もういい?」と言いながら待つ子もいた。

それぞれ好きなどころに向かって遊び始める。最初は緊張した様子も見られたが、どこに足を置くか、手を置くか等、からだを使って考える姿や、友達の姿を見て、同じような動きを真似したり、それを見て違うやり方を工夫する姿があった。

○準備したもの

- ・体技台、梯子、平均台
マット、肋木

- ・梯子：一段ごとに足を揃えて進む子、手足を交互に出しながら進む子がいる。
- ・平均台：両手、両足を開き、平行に進む。
一本の上をゆっくり進んでいく子は、膝をついて体のバランスを取りながら、ゆっくりと進んでいた。
- ・体技台から降りる：ジャンプをして下りる、座って下りると二通り行う。
ジャンプをして下りる時に、両足で着地する子、手を付く子もいる。



- ・肋木：梯子を渡るときのように前を向いて進んでいく子もいるが、体が斜めに向き慎重に進む子もいた。
- ・体技台：高さを変えて並べる。足を上げて跨ぎながら進んでいく。
慣れてくると、足を交互に出して進む子もいる。
- ・体技台の向きを横(80cm)縦(70cm)にする。走って飛び乗るのではなく、踏み切ってから両手をつき、体を支え足裏をつけて上る。
縦は手を付く幅が狭いため足が上がりづらく、何度かやり直す子もいた。片肘をつけ、よじ登る子もいる。



<振り返り>

- ・好きな場所を見つけて、取り組む姿が見られた。初めての設定や少し難しいところでも、やってみようかな?と挑戦する姿が見られ、体の使い方を工夫したり、友達の真似をして楽しんでいた。
- ・平均台：お尻を上げて一本の上を進もうとする子がいたが、体のバランスをとることが難しく前へ進めない為、自分で考えて進み方を変える子もいた。手元を見るよりも、少し前を見ながら進む。
- ・体技台から座って下りる：座った時にお尻をずらしながらゆっくり下りたり、足裏を体技台に付けてから下りる等、自分でどう下りるかを考える姿が見られた。高い所からはジャンプして下りたり、体の向きを変えてお腹を付けて下りることが多い。
“高い所から座って下りる”ことは簡単そうではあるが、難しさを感じる子もいたように思う。
- ・体の硬さや足が上がっていかなかったりと転ぶことが多い子もいる。“足を上げて跨ぐ”ことを意識して設定や遊びにも取り入れていく。
- ・体技台に両手をつき、体を支えて足をあげる事：両腕で体を支えることが難しかった子も出来るようになっていた。まだふらつきはあるが、少しずつ体を支えられるようになってきたと感じる。
- ・子どもたちが楽しく取り組めるよう、様子を見ながら少しずつ難しい設定遊びにも挑戦していく。出来たことを自信に繋げられるようにしていく。